

## ■第15回日本山岳耐久レース事故報告

### ○事故の概要

平成19年10月20日（土）午後11時20分頃、小河内峠と御前山の間にある惣岳山の手前、スタート地点から45kmの尾根上から、男性選手（東京都在住の40歳）が奥多摩側へ転落。180m下で止った。21日早朝、消防庁・警視庁の山岳救助隊および都岳連救助隊により救助活動が行われ、消防のヘリコプターで病院に運ばれ、死亡が確認された。

### ○事故現場の状況

小河内峠から御前山に至る一般の登山道であり、鎖やロープなどは設置されていない。惣岳山頂に向かう小さな起伏のある登山道の、突起を越え下りかかった地点で転落したと思われる。尾根の左側（奥多摩側）は急な斜面、右側は比較的なだらかな斜面の樹林帯である。

### ○発見と通報

転落した選手のすぐ後ろの選手2名が目撃（一人は渋谷消防署員）。ヘッドランプの灯りを斜面下方に確認したとのこと。三番目に現場へ来た選手を待ち、その携帯電話で119番通報。（10/20 23時27分）その後大会本部へは秋川消防署より電話連絡があり、ほぼ同時に三番目の選手より携帯での通報もあった。

### ○救助活動

本部の指示で都岳連救助隊が現場へ向かう。翌朝、消防庁・警視庁の山岳救助隊が出動し、事故者を30m上の道（現在使われていない）まで引き上げる。大会本部より神尾医師も同行し、心肺蘇生術を施し、ヘリコプターでの救助を要請する。6時07分ヘリにて青梅総合病院へ搬送。7時ころ病院にて死亡が確認される。

### ○大会の救助体制

- ① 地元の警察書、消防署へ事前に協力要請。
- ② 本部医療室に医師3名、看護師2名が待機し、いつでも現場へ出動できる態勢。
- ③ 月夜見峠の第二関門へ、看護師2名を配置。
- ④ 都岳連救助隊員14名をコース上の各地点に配置。無線機を携帯し、本部からの無線指示で救助に当たる体制。
- ⑤ AED8台を配備。3カ所の関門（浅間峠・月夜見峠・長尾平）に置き、\*スノーパーが持参。  
\*スノーパーとは、最後尾を選手の安全を確認しながら歩く者。